

令和3年度第3回^{もり}森林の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 日 時 令和4年3月23日(水)
- 2 場 所 杉妻会館3階 百合
- 3 出席委員 9人
- 4 議 事

(1) 議題

ア 令和4年度森林環境基金事業の計画について

【事務局】

(資料5による説明)

【沼田座長】

P2,3の「令和4年度森林環境基金充当事業一覧表(当初予算)」の備考「委託内容の見直し」について、説明を願う。

【環境共生課長】

エコ七夕事業について、県内の幼稚園・保育園・こども園にもりの案内人を派遣し、紙芝居の読み聞かせを実施しており、間伐材で工作を行う。その園数を令和3年度の12から令和4年度は20園に増加した。

【森林保全課長】

ふくしま植樹祭開催事業について、新型コロナウイルス感染症対策として2,000名規模を縮小し、1,000名での実施とした。

もりもり元気事業では活動フィールドの情報収集等の小事業としてやっている事業であるが、企業の森が現在1箇所しかなく、協定締結の数を減じて実施している。

【森林計画課長】

森林文化継承事業は、森林文化の出前講座や、記録映像を作成したりしている。記録映像のテーマのストックを得るために調査を行うこととした。

【鈴木委員】

森林づくり総合対策事業の未来へつなげよう豊かな森林づくり事業が倍増しているがその理由は。

【森林保全課長】

森林づくり総合対策事業の未来へつなげよう豊かな森林づくり事業では以下の事業に

取り組んでいる。

森林づくり指導者養成事業ではグリーンフォレスターやもりの案内人の養成をしている。

森林ボランティアサポートセンター事業ではボランティア団体の登録、ボランティアの斡旋をしている。

子ども里山教育支援事業では、幼児を対象とした森林環境教育の継続、事例の収集をしてきたが、令和4年度はポータルサイトを作成するほか、森林環境教育をする方への技術指導をするため増額した。

県民参画の森林づくり促進事業は新たに追加した事業であり、林業体験活動への助成、森林整備等への助成をするものである。

【緑川委員】

木とのふれあい創出事業での木工指導をいわき農林より依頼され、田人林業研究会やっている。当取組には県内どのくらいの学校が参加しているのか。

また、木材が製材所で端材をもらってきてやっている。ひとかたまりが大きくて、木工作するには扱いづらい。簡単にできるものになったら良いなと思う。

【林業振興課長】

7つの方部の農林事務所へ2名分の報償費を渡し、実施している。

【農林水産部次長】

P10の事業説明に挙がっているそれぞれの取組について説明する。

木工工作資材の配布については100校程度を想定している。

工作指導等を行う専門家の派遣については、林業振興課長の発言のとおり。

木育インストラクター養成講座については、20名程度を想定している。

木製遊具の貸出、モニターの実施については、14施設程度を想定している。

【山口委員】

木とのふれあい創出事業やエコ七夕事業において、松ぼっくりやどんぐりを活動型で収集してきてもらい、県内保育園幼稚園へ配布してほしい。

【環境共生課長】

エコ七夕事業では、もりの案内人が準備したもので工作している。

【林業振興課長】

今後検討していく。

【柴田委員】

(情報提供として) もりの案内人では木工の体験について、800 件/年やっている。
(自然観察を含め) 相双では1回120名やることもある。

エコ七夕事業では、笹舟を作ったりしている。

依頼があればどんぐりを拾って提供もできる。材料代をいただくことにはなる。

イ 森林環境教育支援事業について

【事務局】

(資料6による説明)

【掃部委員】

地域の方の昔話を、聞き書きし、地域7方部の図書館に残っていったら良いなと思う
う(プログラムとして)。プロジェクトチームに聞き書きのことを伝えてほしい。

また、情報発信の点について、一般の人に伝わらないと意味が無い。HPの改修は良
いことであると感じた。事例集の作成についても賛成。

そして、私は現在アートによる新生ふくしま交流事業に携わっている。建築端材を
活用し、ブックエンドや町(模型)を作ったりしている。

アーティストともり案が繋がって、作品展とかに繋がっていったら面白いと思う。

【森林計画課長】

アートによる新生ふくしま交流事業については、調べて、検討していく。

聞き書きについては、林野庁では聞き書き甲子園というものをやっている。福島県
でも独自でできるか等についても今後検討していく。

【鈴木委員】

校長先生の意見によって森林環境教育をやるかやらないか変わってくる実状がある。

森林環境教育を実施するに当たって、先生も誰に連絡したら良いのか分からないので、
人材のデータベースを発信していく等の、体制づくりが大切。

【森林計画主幹】

まず、地域の方、指導者を結んでいくのが大切。その先にデータベース等を検討して
いく。

【吉川委員】

○森林環境教育について、より専門的にやっている学校もあれば、簡易な学校もある。

森林環境教育で何を子どもたちに教えていきたいか。

【森林計画課長】

次世代を担う未来の子どもたちへ森林を引き継ぐために、森林の公益的機能等を学んでほしい。

○里山の荒廃が進んでいることが問題だといっているが、健全な里山の場所等は把握されているのか。

学校では、里山を知るにはどこに行けば良いのかというところが壁になっている。

【森林計画課長】

明確に把握はしていないが、里山林整備事業で里山の手入れに補助金を出しているため、積極的に整備を進めている地域は分かる。

また、各農林事務所森林林業部では、ある程度は示すことはできるかと思う。

○教育現場では、森林環境教育は木に親しむことが大事と考えている。小学校ではプランターを木にしていき、木に親しむ機会を作る、そして中学校、高校で問題意識を持つ。そのように考えている。

【森林計画課長】

御意見を踏まえ、検討していく。

【緑川委員】

教材・教具は今でもたくさんあって、これから作成しなくても改正で済むと思う。一冊で作らず、ファイル形式で作成し、変わるものは変えて新しいものは挟み込んでいく資料であれば、常に最新版になる。

情報発信について、〇〇の情報が欲しければ HP のここを見れば分かるというような作り込みだとよい。

【森林計画課長】

御意見を踏まえて、一番良い方法を検討しながら作成していく。

【柴田委員】

木工作では相双の木は使えていない。早く放射能汚染の問題が解決すると良いなと思っている。

【森林計画課長】

除染については環境省の分野である。

ただ、林業でも森林整備はやっており、森林内から放射性物質が出て行かないように丸太柵などを設置して努めている。

里山再生事業では人が入るような公園や里山で除染ができるような事業があるので市町村を通じて対応していくことも可能である。

【沼田座長】

森林環境教育支援事業が減となった分について、森林整備にお金に移っているように見える。説明が必要ではないかと思った。